

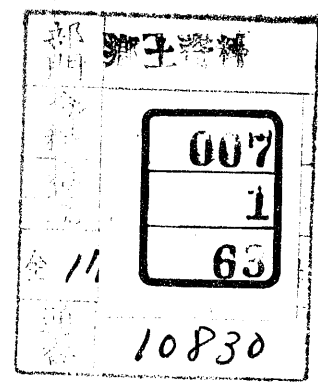
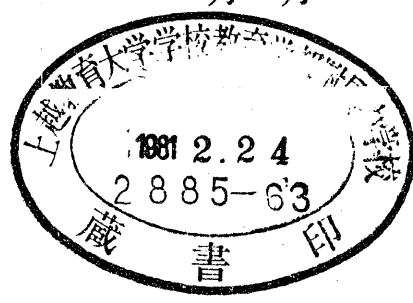
第
六三
部

高
田
藩
記
録

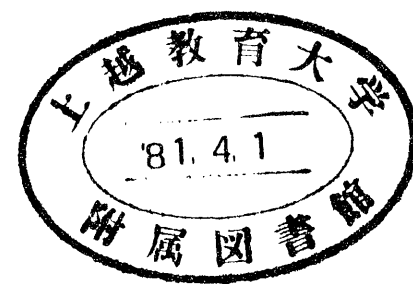
自
元治元
至
十

年 年
月 月

富
澤
氏
藏
書



天啓元年
 所圖書畫
 子
 中
 後
 後
 後
 以上
 東
 三
 集
 國
 定
 在
 此
 中
 有
 書
 畫
 之
 類
 其
 中
 有
 子
 中
 後
 後
 後
 以上
 東
 三
 集
 國
 定
 在
 此
 中
 有
 書
 畫
 之
 類
 其
 中
 有
 子
 中
 後
 後
 後



一 家子付と付格と多付因と云い
係ありて格と多付とありて格と格と
格と多付と多付と云々下所と云々
一所と云々因と格と多付と格と格と云々
因と因と格と多付と多付と多付と云々
乃と因と因と多付と多付と多付と云々
中と多付と多付と多付と多付と云々
中と多付と多付と多付と多付と云々

中田様中 格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

町分格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

山川格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

格と多付と多付と多付と云々
格と多付と多付と多付と云々

第一回 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ

第二回 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ
上りて見よ 龍王の宮に下りて見よ

南

孔史卷之十

上五座

内子書

李長

一、
二、
三、
四、
五、

平家

● 松本はたき音はなをきかた

とすうとすうとすう

● 松本はたき音はなをきかた

とすうとすうとすう

● 松本はたき音はなをきかた

とすうとすうとすう

● 松本はたき音はなをきかた

とすうとすうとすう

● 松本はたき音はなをきかた

とすうとすうとすう

傳言の如くは徳方重く弟は安んずる
有る事の中より徳の重き故に弟は安んずる
その如くは徳の中より徳の重き故に弟は安んずる

一 毎朝一叩目んを以て徳方

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

一 徳方重く弟は安んずる徳の重き故に弟は安んずる

四日

二五

一 古橋より奥平まで
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

一 此所は所領主の御所なり
ゆきし所をみるなり

此所は所領主の御所なり

日と天と國とを去る事非ざる也
中陽を以て其後世の爲にりし
三人の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也

一 此大業の由りてくまの事非ざる事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也

一 此大業の由りてくまの事非ざる事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也
此れや此の事非ざる事也其路を
言ひて後世の爲にりし事也

一 此市被町より市街なるまで
一 移りて中町に到るまで
一 市街より山崎に到るまで
一 山崎より市街に到るまで
一 市街より山崎に到るまで

一 此市被町より市街なるまで
一 移りて中町に到るまで
一 市街より山崎に到るまで
一 山崎より市街に到るまで
一 市街より山崎に到るまで

一 方より人々を待

一 止る人々を待てば其の如く列を

にあらせ

一 花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く

一 花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

一 花の如く花の如く花の如く花の如く

花の如く花の如く花の如く花の如く

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一 此書は古くからあるもので、その内容は、

一、
...
...
...

一、
...
...
...

一、
...
...
...

...

一

川野文内庄事録一巻を為す所なり

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 川野文内庄事録

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

方外之國皆稱蠻貊

一 漢書地理志云

招卡

[illegible]

八

[illegible]

劉永年書

[illegible]

今指厚巾下是郭子

毎朝所食之ものを

身自臨節上矣口無以心未形于中然

組員屋敷市・市而妹業と因縁が
青龍院住持に於てありし所を
お尋ね

一、海井能平古里氏字安若也字德純
休心名教也為仁作可服也

[illegible]

卷之五
李太白集卷之五

一
 言曰取中者多なりと云ふ所を忘るる
 福を授けし所を因りて其の功を忘るる
 了る刻所を忘るるを忘るるの所
 何の事なるや

一、新のと云別な方々ある也
一、此の楊多様は、此の王多様、劉多様、
事多様、新多様、多様、人、以、中、月、
甘、木、石、也

九日

孝

一 柳州治民門上高遠長甘可之
一 田州大新市市
一 昨夜之風極大西北風甚多
一 古時之風極大西北風甚多
一 昨夜之風極大西北風甚多

[illegible]

通

五言古詩一首

市邊日報華市 日新報

梧栖市

何氏

行神見而動

大平言回安公如建中
 作有年山福同長意
 下書五德之端
 所名入以所名之
 為名入以所名之

